



卒業証書授与式

2月28日(金)、第43回卒業証書授与式が行われました。在校生不在の中、粛々に行われた卒業式でしたが、来賓の方と多くの保護者の方々に囲まれて、和やかな雰囲気の中、卒業生が入場し、厳かに式が始まりました。

卒業証書授与では、担任からの呼名に、卒業生ひとりひとりが3年間の思いを込めて大きな返事で応えていました。総代として、石橋優君が、卒業証書を受け取りました。

その後、校長先生をはじめ、来賓の方から、お祝いや激励のメッセージを頂きました。



在校生の送辞では、現生の徒会の野中秋桜さんが部活動や学校行事などの卒業生との思い出や感謝の言葉、そして神崎高校のこれからの受け継ぐ者としての決意を述べました。

卒業生を代表して、前生徒会長岡本紗和さんが答辞を読みました。3年間で振り返り、3年間ともに過ごした同級生や先生方への思い出や保護者の方々の感謝、これからの人生の抱負を涙ながらに述べました。

最後に、式歌や校歌斉唱で、会場全体は大きな感動に包まれました。在校生不在の中、卒業生を温かく送り出すために、教職員や保護者も大きな声で唱和しました。卒業生は全員で校歌を歌う最後の機会に思いを馳せながら、歌いきました。泣きながらも全力で歌う姿や歌声は、会場にいるすべての人の心に深く響きました。



退場する時、卒業生が一行毎に声を揃え、「ありがとうございます。ごさいます！」と学年の先生に感謝の言葉を伝え、退場していききました。涙ぐみながら退場する者、笑顔で退場する者、その退場する姿は、はっきりと成長が感じられ、立派に神崎高校の名を背負って、社会へと羽ばたいていけると確信させてくれるものでした。

式後は、各クラスで最後のLHRが行われました。卒業証書を担任の先生方から手渡され、一人ずつクラスに向けて、最後のメッセージを伝えました。担任の先生方からの饒の言葉は卒業生たちにとっていつまでも心に残ることでしょう。

43回生の皆さんの更なる飛躍を祈っています。

特色選抜

2月17日(月)、春の兆しを感じられる中、特色選抜が実施されました。本校入学を目指した15名の受検者が、緊張した面持ちで、小論文と面接に挑みました。

2月22日(土)午後、少し小雨の降る寒さの残る中で合格発表がありました。発表の瞬間大きな歓声が沸きました。12名の中学生には天候とは異なり、一足早い春がやって来りました。

4月には希望に胸を膨らませて神崎高校に入学することでしょう。



一方で悔し涙を流した受検者は、諦めずに複数志願で神崎高校に再度挑戦してくれたらと思いません。写真は発表前と合格証の受け取り風景です。

ちょっと一言

◇新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応として、校長の判断で在校生を自宅学習にしたことにより、卒業式を寂しくしてしまったことをお詫びします。多くの方々のご理解のおかげで、結果的に厳粛な式が挙行できました。参加者全員が声高らかに歌い上げる歌声は圧巻でした。76名が胸を張って巣立っていきました。保護者や地域の皆様のご理解に心から感謝しています。43回生の皆さん、これからは同窓生としてお世話になります。(N. A.)

・「神崎夢実現プロジェクト」
・部活動「外部指導者」・「神高部活動基金」
を募集しています。

詳しくは神崎高校へご連絡
いただくか、ホームページを
ご覧ください。

